

歯科人間ドック

図3 歯科人間ドック定期受診のメリット

定期的な歯科人間ドックを受けると

- ☑ 口腔の健康維持
- ☑ 早期治療による医療費の削減
- ☑ 診療時間の縮小や回数の短縮
- ☑ 身体への影響（歯を削る・抜く）が減少
- ☑ 全身疾患の悪化を防ぐ
- ☑ アンチエイジング

一般社団法人日本歯科人間ドック学会ホームページ
<http://www.jddock.net/>

歯科人間ドックを定期的な受診にすることで、多くのメリットがあります。疾患を早期に発見できれば治療に要する時間や診療回数も短縮でき、体に対する侵襲も少なく、さらに治療費も安くなります。また、歯科疾患と全身との関連性については本特集の最初に述べたとおり密接に関係しているため、全身にとっても有益となります(図3)。こ

ばならない状況になってようやく歯科医院へ来るという患者も見受けられます。このことから、口中の病気も全身の病気と同じように、初期に見つけ・治療することが望ましいのです。

を総点検することにより病気の早期発見とリスクについての確認をします(図2)。まず、健康調査票(問診票)により様々な自覚症状から口腔内疾患だけではなく全身疾患の早期発見も可能であり、体型や姿勢、歩き方などもチェックして、噛み合わせとの関連も調べられます。唾液検

査では、唾液緩衝能(虫歯になりにくい能力)と流出量を検査します。虫歯の検査では見落としがないよう器具を用いた詳細な検査を行い、歯周病に関しては疾患の有無に加えリスクについても確認するのです。口腔軟組織(舌や頬の内側)検査では、口腔癌や癌になりやすい病変を眼で見て指で触りながら見落としすることなく確認します。咬合(噛み合わせ)検査として、まず現状での確認を行い、歯型を取って模型を製作してからより詳細に検査を行います。また、顎関節の異常、噛み合わせや生活習慣による顎の痛みについても検査

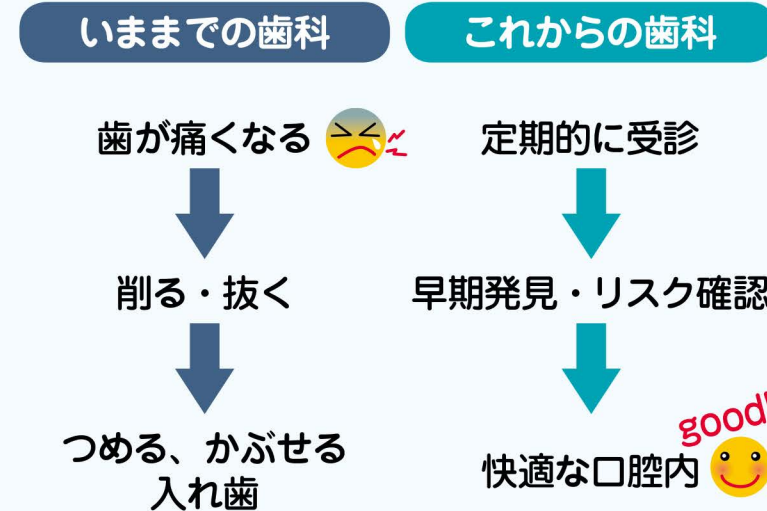
れます。さらには残念なことに、治療を行っていない者の割合は虫歯では半数、歯周病では20%程度と非常に少ないのです。虫歯や歯周病では、痛みなどの症状が出ないとなかなか治療に行かない傾向があります(図1)。しかし、ほとんどの口腔内疾患は治療経過の良好なごく初期では自覚症状が現れないため進行してしまいます。結果的に歯の神経が侵されたり、歯を抜かなければならぬ状況になってから歯科医院へ行くのではなく、数ヶ月ごとの定期的な歯科健診を行なうとともに、1年に1回は歯科人間ドックによる総点検を行なうように心がけてください。歯科人間ドックの希望に関しては、日本歯科人間ドック学会ホームページに認定施設、認定歯科医師が掲載されていますので、ご確認ください。

監修 小川智久(日本歯科大学 附属病院)

図1 歯科疾患の特性

1. 慢性的な経過
2. 軽視されがち
3. ほとんどの人が経験する
4. 発症に年齢との関連性が強い
5. 罹患経験を知ることができる
6. 歯種(部位)により痛みの症状が異なる

図2 歯科人間ドックのあり方



口の中の2大疾患
 虫歯と歯周病
 わが国が健康長寿であることについて諸外国で様々な検討がなされ、「医療制度の充実」や「日本人特有のライフスタイル」などが挙げられています。なかでも興味深いのは、「医療制度の充実」としての国民皆保険制度とともに、学校や職場さらに地方公共団体などにおける法令で義務付けられた健康診断と、さ

らなる詳細な検査を行なう人間ドックの存在が注目されている点です。定期的な健診と人間ドックにおける精密により自覚症状のない初期に病気が発見でき、そのため良好な予後をもたらされているのです。

口の中の2大疾患は虫歯と歯周病ですが、成人の約25%の人に虫歯があり、歯周病においてはなんと成人の約80%がすでに歯周病になってしまっているの

です。さらに残念なことに、治療を行っていない者の割合は虫歯では半数、歯周病では20%程度と非常に少ないのです。虫歯や歯周病では、痛みなどの症状が出ないとなかなか治療に行かない傾向があります(図1)。しかし、ほとんどの口腔内疾患は治療経過の良好なごく初期では自覚症状が現れないため進行してしまいます。結果的に歯の神経が侵されたり、歯を抜かなければならぬ状況になってから歯科